

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0390100055		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホーム ゆうゆう黒川		
所在地	盛岡市黒川7-37-8 (電話) (019)675-1001		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	1月28日

【情報提供票より】19年10月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 19 年 1 月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.6 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	15,100 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		990 円

(4)利用者の概要(10月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	- 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	75 歳	最高	88 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川久保病院、八木クリニック、星と虹歯科クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

黒川地内で国道396号線(県交通松本商店バス停前)で分れ東方に入って、JA電信センター前からほどなく峰崎公民館がある。道路を挟んだ向い側の果樹園と畑地の中にある閑静な住宅地に位置している。一般民家を改良し家庭的雰囲気が感じ取れる。階段を幅広く傾斜を緩くしたり、昇降機を設備したり、全室床暖房にするなど高齢者に配慮されている。
自治会に加入し、地域社会の一員として取り組んでいこうと諸行事に参加するようになっている。医療連携に努めながら利用者の健康管理面で留意している。職員は新しいホームのあり方を考え創造するため真摯に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設して一年未満で、今回が初めての評価のため、この項目は該当しない。ただし、評価には真摯に取り組んでいる。 全員で自己評価を行い、結果をまとめ職員同士で問題点について話し合いを持ち、改善に向けて日々取り組みをしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	近隣の方にメンバーになってもらい、近所とも気軽に挨拶が出来るようになった。会議でも意見は少ない状態なので今後共継続してグループホームへの理解を求めていきたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	病身の家族に対して、訪問して入居者の様子を伝えたり理解をしてもらっている。請求書とともに生活の様子を手紙に書いて送付している。今のところ意見・苦情はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会への参加、公民館行事への参加と積極的に出かけて行く方法をとっている。案内を受けたり、招待をされたりしているが、グループホームへの訪問はあまりない。開設後、日は浅いのでまだまだの面はあるが努力していく考えである。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分らしくを大切に踏まえると共に、地域の中でも自分の暮らしを大事にしていけるようでありたい。自分を最も大切に考えつつも地域に密着したあり方については念頭においた理念を持っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今年の開所にあたって、理念は管理者が起案し作成した。職員全員で話し合う中での理念作成を望んだができなかった。開所後、2~3日ほど理念についてミーティング時に管理者の考え方をもとに職員の意見交換をし共有化を行い、その後の実践に取り組んでいる。	○	繰り返しの効果は出てきているが、内容の向上を求める上からも、研修の場を持ち、見直しも視野に入れての取り組みを期待したい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所時には、近所にチラシを配り、内覧会も行った。町内会に加入し会費も納めている。地区の行事に参加をしているが、家庭としての位置付けでは行事予定は必要ないと考えているので、グループホームでの開催はしていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行った。外部評価は違う目で見てもらい、間違いに早く気づいたり、自分達への励ましとしたい。人と人との関係作りは、まず職員から作っていきたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、あまり意見が出されずグループホームを理解してもらう説明が多い。少しずつではあるが、地域に溶け込んできており、避難訓練の呼びかけに近所の方が訪問してくれた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政より委託を受けた包括支援センターの職員との交流を持っている。用件は電話・FAXで行っている。今後は行政の窓口まで、足を運ぶこと等により関係性を深めていくことに期待したい。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調の変化に関しては即電話で連絡、ほかは来所時及び請求書送付時に、様子を手紙で報告している。小遣いは、自己管理で立替払い等の同意書を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人から、他人の入室に関して内鍵を付けたいとの希望があり、検討の結果、簡単な内鍵を取り付けた。本人、家族からの意見等は、速やかに対応する用意がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホーム内での異動はまだない。今後について異動等によって馴染みの職員が代わる等の場合の配慮については工夫をしたい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や学習会には積極的に職員を参加させている。職員の希望も満たす努力がされているが、計画として表されていないのが不便と感じられる。	○	年度初めに外部と内部の研修・学習計画を立てたものがあれば個人的にも計画が立てやすいので、研修計画の立案を希望する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会(県・ブロック)への参加、他法人のグループホームとの交流を、行っている。来年度は交換研修も行いたいと思っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居(利用)を決める前には、家族と共に来所して様子を見てもらい、多い人は3回位来てもらっている。本人が利用に前向きでない人ほど回数が多くなっているが、最終的には利用者本人の意向を尊重することにしていく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昼食の準備には、半数の方が調理、盛り付け、テーブルふき等を行っていた。人生の先輩として教わりながら共に支えあうよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を基に習慣等を把握し(私の暮らしについて)思いの汲み取りを大切にしている。日常スカートをはく人、衣類を部屋に掛けておきたい人等その人の楽しみや思いに繋がる支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	結果として家族への報告が事後になることもあるが、本人と家族を軸に医療機関、地域の人々等の意見を反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が日々の取り組みの中で情報を確認しながらの対応をしているが、計画の見直しには至っていない。	○	申し送りなどによって必要な支援をしていることを踏まえながらも、定期見直し前の変化については、本人と家族の相談の上、変化した現状に即応した計画の作成に努めることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	川久保病院を核とした医療連携体制により、支援対応が作られている。訪問歯科の利用も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	川久保病院の他、今までのかかりつけ医についても希望によって継続して受診出来るように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制に関する指針がある。職員は研修により共有をし、本人・家族には入居時に説明をし同意書を取り交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人として尊敬することを念頭に置き、声掛け、接し方に注意を払っている。守秘義務に関しては徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その日したいこと」を把握し、ケアに活かす。自分のペースで自由に過ごすことが出来る。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホーム独自の献立を作成し、記入の仕方や、メニューの選び方が、ユニークである。食事作り、後片付け等も一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後で、希望する時に可能である。ほとんどが自力入浴可能で見守りがほとんどである。希望の湯温に配慮し、入浴マニュアルによって体温と血圧で入浴の可否判断基準を定めて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴によって出来ることの支援、本人が希望することを把握して支援することに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの行動パターンをつかみ、付き添ったり、見守りをしたり、さりげなく支援している。1日おきの買出しも希望者が交代で参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないことが基本で、利用者と家族の希望で居室に簡単な鍵を付け、安心感を持ってもらっている方もいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練は年2回を予定しており、7月4日に実施した。地域に事前に、お知らせをしたところ、1名の方が、駆けつけてくれた。災害マニュアルも用意されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録により、1日の流れ、食事、水分、排泄等すべてのチェックが可能である。状態に合わせてバランスよく摂取されるように支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を全面改造されたグループホームで、家庭の雰囲気やソファ、テーブル等自由に居場所を選ぶことができる。テレビ、時計も見やすい場所に置かれ、工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	数的には少ないが、自分の使い慣れた物が持ち込まれ、使用されている。写真、書、等思い思いに居室作りがなされている。		